

## 子宮肉腫と子宮筋腫を鑑別する腫瘍マーカーの開発を目的とした研究のおしらせ

福井大学医学部附属病院産科婦人科では、倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、対象に該当すると思われる方で、検体の使用を拒否される場合は下記問い合わせ先へご連絡下さい。

平成29年2月8日 福井大学医学部附属病院産科婦人科

【研究課題名】子宮肉腫と子宮筋腫を鑑別する腫瘍マーカーの開発

【研究期間】平成29年2月8日 から平成32年3月31日まで

【研究の意義・目的】子宮がんの中で子宮肉腫は非常にまれな病気ですが、有効な化学療法(抗ガン剤治療)は確立されておらず、手術療法が主な治療です。しかし、子宮摘出後に血液の流れを介した転移による他臓器への再発率が高く、予後不良な腫瘍といわれています。一方、良性の子宮平滑筋腫(子宮筋腫)は30代女性の約1/3に認められますが、悪性の子宮肉腫と鑑別する診断マーカーは確立されておらず、正確に判断する為には外科病理検査を必要とします。その為、良性の子宮筋腫として子宮摘出をした後に悪性の子宮筋肉腫と判明することもあり、病理診断が非常に困難な疾患として知られています。本研究では、何種類かのホルモンについて婦人科腫瘍患者の血中濃度を測定し、その測定値の組み合わせにより子宮肉腫と子宮筋腫を早期に鑑別できる腫瘍マーカーを開発します。この開発により、子宮肉腫の死亡率低下に寄与することを目的としています。

【研究方法】子宮肉腫と子宮筋腫を鑑別する分泌性タンパク質(ペプチド)の候補を以下の2つの方法よりピックアップします。

- 1) 子宮肉腫移植実験モデルの原発巣を用いたDNAマイクロアレイの結果より候補を決定する。
- 2) 公開されているデータベースを用いて、子宮肉腫特異的に高発現している遺伝子を候補とする。

候補となる分泌性タンパク質(ペプチド)について、婦人科腫瘍患者の血中濃度をELISAまたはIRMAと呼ばれる測定法を用いて測定します。最終的に、これらの分泌性タンパク質(ペプチド)の値の組み合わせにより、子宮筋腫または子宮肉腫の罹患と有意に相関するカットオフ値を定め、子宮肉腫の可能性を数値化します。

本研究では、当科で術前に「採取資料(試料)の検査・研究使用について」の同意していただいた方の血液・手術検体の一部を使用させていただきます。手術検体は連結可能匿名化(必要な場合に人を識別できるよう、その人と新たに付された符号又は番号の対応表を残す方法による匿名化)した状態で使用させていただきます。ただし、現時点では研究段階のため、対象となった患者様へ個別に研究結果の報告をいたしません。また研究の結果に対して特許権等の知的財産権が

生じた場合、その権利や経済的利益は国、共同研究施設、および研究遂行者等に帰属します。本研究の結果は後日学会発表や学術誌などで公表する場合がありますが、その場合も個人のプライバシーの保護を厳重に守ります。

【研究期間後の試料等の取り扱い】研究に関する試料等は研究期間終了後も平成 42 年 3 月 31 日まで保管させていただきます。将来、試料等を新たな研究に用いる場合には改めて計画書を提出し、倫理審査委員会の承認を受けます。

#### 【研究組織】

研究責任者:産科婦人科 吉田好雄教授

研究分担者:産科婦人科 山本真助教

産科婦人科 山田しず佳医員

分子生体情報学 水谷哲也准教授

共同研究者

大阪大学医学部産科婦人科	助教	上田 豊
近畿大学医学部産科婦人科	講師	鈴木 彩子
四国がんセンター婦人科	部長	竹原 和宏

【本研究に関する問合せ先】本研究に関してご質問がある場合は下記までご連絡ください。

#### ○問合せの窓口

福井大学医学部 産科婦人科医局 担当 吉田好雄

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

TEL:0776-61-8392 FAX:0776-61-8117 e-mail:obgyn@med.u-fukui.ac.jp

#### ○苦情の窓口

福井大学 総務部 松岡キャンパス総務室 学術支援係

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

電話:0776-61-8614 Fax:0776-61-8153